



南高 SSH だより

第 1 号
令和 2 年 10 月 26 日
新潟南高等学校
SSH 総務部発行

中間評価ヒアリングを終えて

新潟南高校 SSH 事業第Ⅳ期も 3 年目の折り返しを迎えました。先日オンラインで第Ⅳ期の中間評価ヒアリングが行われ、4 人の評価者と教科調査官からの質問に校長、新野 SSH 総務部主任、県教育委員会が回答したところです。第Ⅳ期の新たな取組や先生方の努力、そして何よりも生徒の変容について十分に伝えることができたと思っています。評価が確定するのは来年度になりますが、本校の新たな取組が高く評価されることを期待しています。



今年度は新型コロナウイルスの関係で年度初めから臨時休業となり、本校の SSH 事業の各種活動も多くの制限がかかったことから、当初予定していた活動の中止や変更を余儀なくされました。そんな中でも、生徒の貴重な研修機会を確保したいという思いからアメリカ研修の代替として魚沼市の国際大学と連携したオンライン研修と泊を伴う臨地研修を計画するなど少しでも失われた研修を補完すべく SSH 総務部ならびに各学年でできるだけ代替の研修やオンラインによる発表会を企画してもらっています。担当の先生方のご協力に感謝いたします。

昨年来、本校の ICT 環境は急速に整ってきました。創立 80 周年記念として贈呈された全教室の常設型プロジェクターと Apple TV、教員用 iPad に加え、独自の Wi-Fi 環境として「江風ネット」が整備されました。また生徒のスマートフォン等を江風ネットに接続して活用する BYOD (Bring Your Own Device) についても可能な環境となっています。コロナ禍における各種オンライン会議や発表会が実現できたのもこの環境整備によるところが大きいと感じています。

「Society5.0」の時代にあって、今後益々 ICT 教育の加速が見込まれます。次代を担う子どもたちが主体的な学びを実現するための新たなツールとして、この環境を最大限に活用していきたいと思っております。日々の授業スタイルも変わりつつあります。生徒用 iPad が年度内に 400 台近く整備されることにもなっています。便利で効率的な機器も活用を進めなければ活かすことはできません。この環境を新たな本校の強みとして、SSH 事業にも活かしてまいります。

今後も本校の SSH 事業に変わらぬご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。

新潟県立新潟南高等学校 校長 石井一也